総評大会　春闘方針を確立

中心課題は、依然大幅賃上げ

全国の働く者の注目を集めて、去る三～四日東京で開催された総評臨時大会は、依然〝大幅賃上げ〟などを中心課題とする〝七一年春闘方針〟を決定した。

方針では賃上げ要求のほかに、「合理化反対」「社会保障の確立」「スト権奪還」「公害」や「減税、物価、住宅の問題」「安保廃棄・軍国主義復活反対」「統一地方選挙・参議院議員選挙での勝利」などがある。

闘い方としては、四月上旬に民間単産を結集して集中的にストライキをうち、さらにそのストを反復しながら四月中旬に再度力を集中する。そして同月下旬に最大のストを集中、高原闘争状態をつくり出して、要求の獲得をねらう。

すでに各単産が要求の提出を終り、闘争準備にはいっている。

要求はいずれも一万五千円以上。高物価が要求を切実にしているのである。

ストライキを〝反復〟

四月下旬に高原状態つくる

戦線統一の原則は

資本と闘う力の結集

石橋社会党書記長

こんどの総評大会が注目を集めた原因の一つは、労働戦線の統一問題がどのように克服されるかにあったことはもちろんだったが、この問題についてはとくに石橋社会党書記長の発言が、決定的な意味をもっていたという。同書記長の発言のうち、右の問題にふれた部分は次の通りである。

×　×

野党共闘で一部の政党から、野党再編成を前提にすべきだとの見解が示されていますが、私たちとしても、共闘を発展させてゆく中で、統一戦線を結成できる大衆的な基盤をつくらなければならないことは当然です。

しかし野党再編成を唱える諸君は、自民党にかわる政権を口にしながら、政治目標をもたない。ほかに意図があるのではないか。

真意は何か。社会党をゆさぶって、くさびを打ち込むことです。それでは自民党政権をささえる役割を果たすことはできても、それにかわるなど不可能な話。

このようなことは今日、日本の労働運動が直面している労働戦線統一問題についても、いえることです。労働戦線は、寡占化がすすんだ独占資本の支配体制に対抗するためにこそ統一さるべきです。何が何でも一緒になりさえすればよい、というものではないと思います。

まして特定の組合を排除するという前提でなされては懸念を感じます。社会党は、強大になった資本と闘うことのできる、大きく、強い統一母体をつくり上げるために、正しい原則と路線の上に立って、じみな努力が重ねられることを心から願いつつ、われわれもまた、協力させていただきたいと思っています。

三池そのまま出てきた暴力団

沖縄全電通の青年労働者が来組

去る八日、本土の全電通労組との交流を求めてやってきた沖縄全電通労組の青年婦人部員（男二、女三）が、「ぜひ三池労組と交流したい」として来組、沖縄へ帰るわずかの時間ではあったが、渋田書記次長と語り合った。

その中でその人々は異口同音に向こうの現状を語ったが、次のように、まったくひどいものだった。

「日本の独占資本が、必ずや公害をもちこんでくるに違いないと監視している。

警察の態度もかわった。暴力団が本土からやってきて、労働者に襲いかかるのを目の前に見ながら見て見ぬふりして野放しにしている。いや逆に、機動隊がその暴力団を守るほどだから、三池闘争のときとまったく同じ。

矛盾も、ようやく出てきた。その中で三池に学び、私たちはがんばっている」

〝大地評駅伝〟終る

三池、五・六・九位を飾る

各労働組合をあげて〝家族ぐるみ〟という、三池労組ばりの新形式をもって、第一十回大地評駅伝は去る七日に開催された。

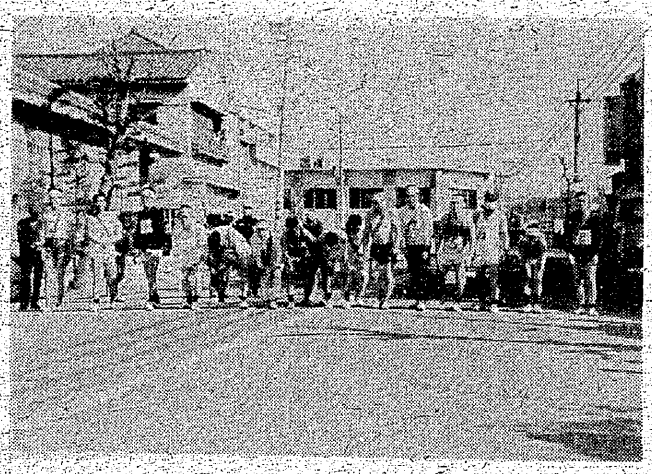
栄冠を競うチームが家族ぐるみなら、この日各労働組合がくり出した応援も家族ぐるみで、例年に見られないにぎわいとなった。事実参加チーム数も昨年より多い十七チーム。三池労組からは三チームが参加、敢闘した。

三池労組としての成績はCが五位、Aが六位、Bが九位だった。優勝チームは三化労組Aチーム。以下二位＝三化労組B、三位＝合成の順だった。

河野書記（大牟田地評）の話

こんどの大地評駅伝について、大地評の河野書記は語った。

「こんどの駅伝は、これまでの記録重点主義から、春闘・統一地方選挙の勝利を目指す団結駅伝にかえたことが、成功の第一でした。それはこの駅伝はじまって以来、二番目に多い参加チーム数になったことに具体化され、沿道をうづめた応援も家族ぐるみ。春闘への決意がにじみでていました」



余裕しゃくしゃく、スタートを待つ選手たち

さっそくお礼状

全逓大分・長崎が合同で三池に学ぶ集会開催

全逓労働組合の大分と長崎を固く結んでの〝三池にまなぶ集会〟

こんどの集会には大分から四十四人（責任者は十時一実さん＝全逓大分地区本部青年副部長）、また長崎から六十一人（責任者は山下勝さん＝全逓長崎地区本部青年副部長）で、中に十一人の婦人が含まれていた。

全参加者は初日宮川組合長の闘いの現況を聞いたあと、それぞれ分かれて組合員家庭に宿泊、地域分会や主婦会、組合員家族と交流、翌日総括を行なったあと、熊大病院のCO患者を見舞い、大分と長崎を目指して帰っていった。

さっそく組合に寄せられてきたお礼状の一つは、次のようにこんどの〝三池に学ぶ集会〟をふりかえっている。

「大牟田が三井の街ならば、長崎は三菱の街であるところに共通点があり、それ以上に私たちには〝労働者だ！〟という、動かし難い共通点があります。そのことを、三池で肌を通して感じとって帰ったつもりです。この感激を武器にし、エネルギーにかえて、職場で地域で闘ってゆく決意です。（全逓長崎地区本部青年部婦人部から寄せられた手紙）

なお、大分と長崎から、多額のカンパが寄せられたことを、感謝の意をこめ記しておく。

最後の総括集会

詩　寒かとよ

三川　田中　繁満

寒かとよおどんが心
毎日のごはんのことも
おかずのことも
想うとおどんが心は
寒くなる

心も寒かと
ふところも寒かと
路行く人達は
ぬっかコートを着て
歩きよらす

おどん達はなんで
安か給料で働かんなんとか
おかしかやっか
うすいマフラを首にまいて

「何年か先イ働く者の世
の中ンきっと来る」

おっどまっぷやき
がんばろうの歌を
口ずさんで歩く

友への手紙

三川　木村　守

ピケットを警官隊を監視する互いの警戒班擦れ違う……

大牟田を去られる日お渡ししたあの色紙持っていられますか。激しかった三池大闘争の教訓決して忘れないように、と僕はいいましたね。あれから十年、私の職場に仲間はたった四人になってしまいました。しかし僕たちはひるむものではありません。時々刻々、事態は労働者大衆のものに近付きつつあるものを感じるからです。

日本全土に爆発する公害に憤る声。これだけでも組織化できたら、一挙に自民党保守政権をひっくり返すことができるはずです。総評が打ちだした「命を守る」闘いこそ、この闘いなんです。それなのにはがいさだけが返ってくるのは何故でしょう。それは互譲の精神に欠けるところがあるからではないでしょうか。独立独歩は結構なことなんでしょうが、四面皆敵ではまとまりがつかないでしょう。共闘――これには対者を優位におこうとする努力を忘れてはならないはずです。

ところがどこの労働組合も同じだが、社会党、共産党の指導機関にも派閥抗争のみがあり、それが大衆のこころを裏切るのみにて、自民党政権にいたずらに時を与えているのです。僕もあと三年で停年となります。残る三年を悔いのない労働者でありたく、能力の限りをペンに託していくつもりです。

僕の職場でもやっと職場新聞がだせそうです。去年九月、三池労組の職場新聞編集実務者会議が、玉名で一泊二日にわたり開催されましたが、僕も十分意見をだしてきました。今後は新聞を発行して本当の職場の声を集録せねばなりません。大変根気のいる仕事でしょうが、本当の力はペンにあると自信を持っています。もし職場新聞が軌道に乗るようになったら送りますので、そちらからも大いに力をかして下さい。

それから多分、山本炭労委員長を参議院議員選の全国区候補に推せんするハガキが届くかと思いますが、炭鉱の斜陽といわれて十余年、衰微の一途をたどっています。これも独占資本本位の政治がたくらむ策謀にほかならず、電産潰滅で味をしめ、炭労、鉄鋼と、餌しい日本人の心を巧みに利用した攻撃でしょう。

現在燃料炭は依然原油に圧されて駄目ですが、原料炭はアメリカの輸出制限もあり、極度に不足をきたしつつあります。この時期に炭労委員長の立候補は重大な意義を示すものでしょう。

不況炭鉱からやむなく去られた貴殿としても、見過ごすことはできないはずです。

戦闘配置につけの指令はマイクにて

黙々と夜闇をいそぐ隊列

何故警官を向うにまわして闘わねばならない闘争だったのか。二万の警官をしても破れなかった労働者の力はどこにあったのか。共に闘った者のみが知る尊い経験でしょう。僕たちはあの闘争の本当の意義をいつまでも生かすことに努力して、後進に伝える義務があるはずです。参議院議員選挙に絶大のご協力を。